

行政視察報告書

■目 的

防災科学技術研究所つくば本所の防災力を育む取組、品川区の子どもへの体験型防災教育、東京消防庁の消防博物館での防災教育についての調査

■訪問都市

茨城県つくば市、東京都品川区、東京都新宿区

■期 間

令和7年2月13日（木）から2月14日（金）まで 2日間

高松市議会

<自由民主党清新会>

派遣議員名簿

北谷 悌邦 糸瀬 文史

概要

日時：2月13日（木）午後2時～3時30分

場所：国立研究開発法人 防災科学技術研究所（茨城県つくば市天王台 3-1

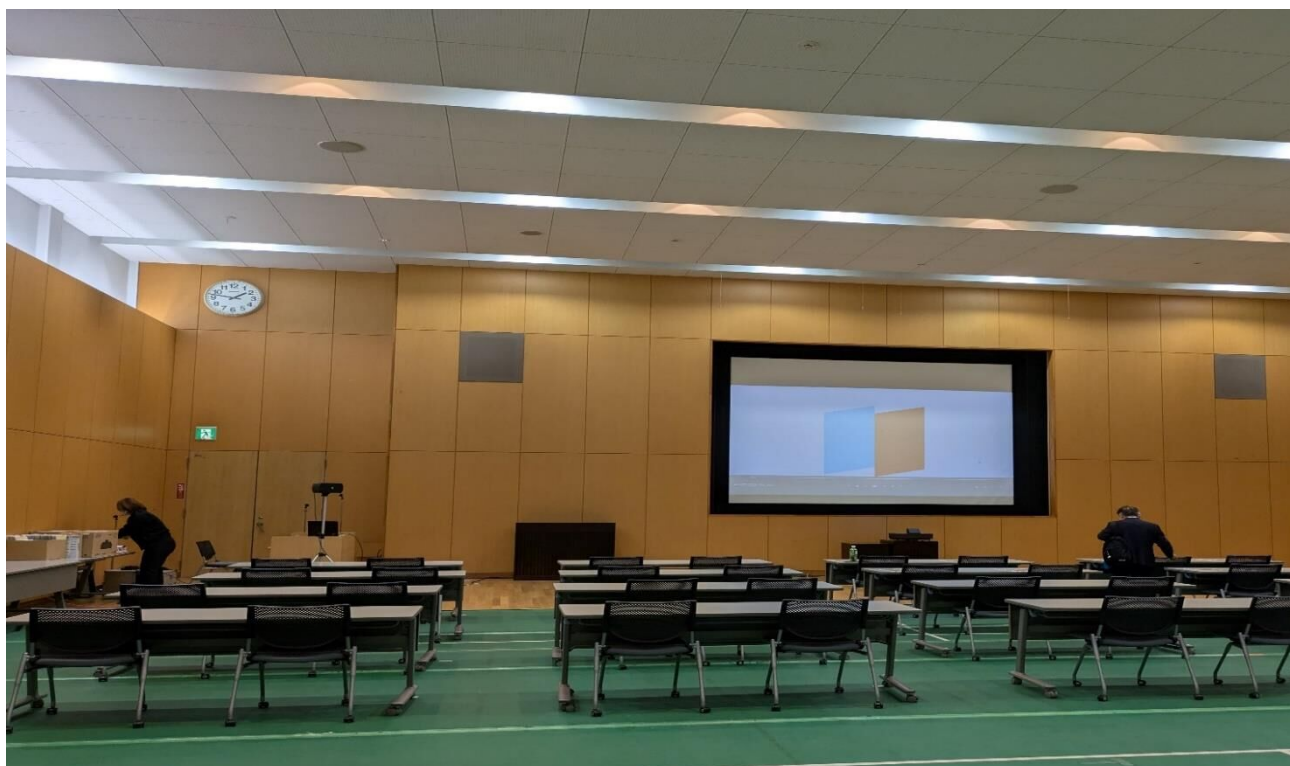
主催：同上

要旨：最新の防災研究の享受

本文

【生きる、を支える科学技術 防災科学技術研究所】

2日間の日程で関東にて会派の建設消防部会の視察として最初の訪問地となったのは、防災科学技術研究所。

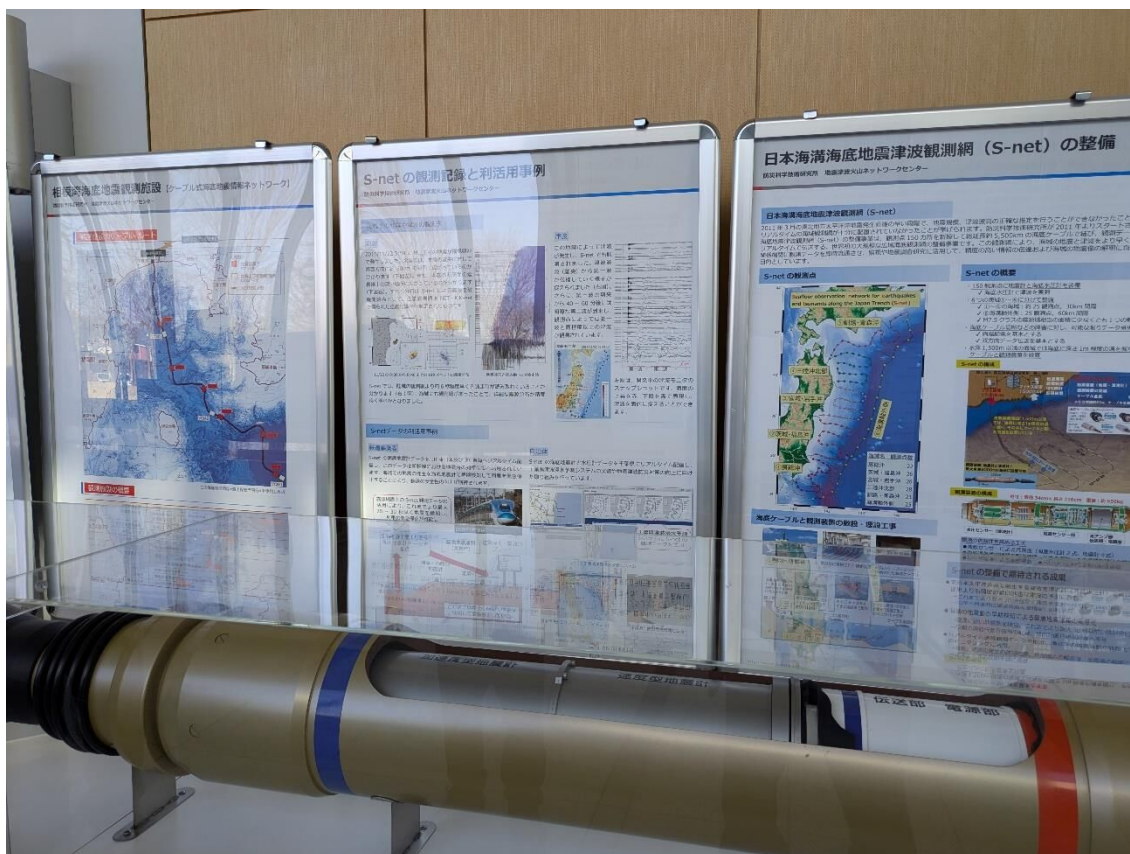


災害大国日本において、南海トラフ巨大地震の発生確率が80%に引きあがるなど、自然災害を想定してレジリエンスを高めることが急務となっており、ここは自然災害を研究する唯一の国立科学機関として様々な研究結果や情報を、公共交通機関や自治体へ提供しています。

330名の職員中120名の研究員が在籍している中、防災科学技術の理解を深めていただくため、施設見学や地方公共団体や行政機関、教育機関等への講師派遣を実施しており、私たちも、丁寧にご説明頂いたところです。

また 防災科学技術研究所は、ここつくば市と兵庫県三木市に、それぞれ巨大な実験施設があり、それぞれの仕組みについても、係の方から質疑応答を取りながら詳しくご説明をいただきました。

また、ここでは、実際の装置や器具、また全国のリアルタイムでの数値の変化に触れるとともに、日本の国土に今どのような取り組みが行われているかについての解説と、つくば本所以外に関西にもう一か所巨大な実験施設も開設されているそうで、今や日本全土に地震計を配置し、ウェブページからも閲覧が可能となっていました。



東日本大震災からは、海溝部など海の中にも沢山のセンサーを配置しており、実際の装置も見させていただいたが、一部運用している沿岸域に合わせ、南海トラフ沿いの海洋域にもこの夏頃には巨大観測網の N-NET の設置が完了するとの話で、そのことにより地震波の到達前の時間のゆとりを以前よりも 30 秒早く緊急地震速報を出せるようにしたということでしたが、この 30 秒で安全確保行動として、身を低くし頭を守り動かない、机などの下にかがむなどの行動ができるようになり、シェイクアウトに短い事案だが一定の余裕が生まれることで、瞬時に対応できるといわれており、南海トラフ巨大地震想定域に住むものとしては、この 30 秒を作り出した防災科学技術を大変ありがたく感じました。

ところで、この研究所に隣接する実際の揺れを体験できる地震ザブトンの体験を交代で受けたところです。ここでは、過去に日本で発生した地震や、今後想定されている様々な地震を体験できます。



各議員が選んだ地震を体験させていただきましたが、いきなりの揺れに、これが実際に起こったと考ええると、背筋が震えるほど恐怖を感じたところです。

実際、体験された方の気持ちになると、まったく予想してない平穏な時に、この揺れがいきなり来たらと思うと、あらためて地震は怖いと思いました。

こちらの施設の取組は、一秒でも早い予測をし、一分でも早い避難につなげ、一日でも早い回復のため、地震、津波、噴火、暴風、豪雨、豪雪、洪水、地すべりなどの自然の脅威に対し、国のトップ技術を駆使した各研究センターや実験所での実験で得られたデータをもとにした研究を基盤に防災科学技術を発展させることで私たちの命と暮らしを支えている唯一の国の研究施設として本当に、ありがたく、心強く感じたところです。

所感

今回の行政視察において、まず、最新の防災科学技術の内容と今後の予定などを学ぶことができました。防災意識を上げるためにも貴重な体験ができたと考えます。このような体験が、本市でもできるようになれば、子供たちの生きた防災教育にもつながるのではないかと感じました。あと 30 年以内に起こるとされている南海トラフ巨大

地震を生き抜いていくためにも、本市が取り組める防災力の向上策を推し進めるべきと思いました。

概要

日時：2月14日（金）午前10時～11時30分

場所：しながわ防災体験館（東京都品川区役所広町 2-1-36）

主催：同上

要旨：防災展示と要配慮者避難誘導体験

本文

【災害から生き延びる しながわ防災体験館】

東日本大震災の教訓を踏まえ、災害から生き延びることを目的として、災害時の正しい知識や技術の習得、防災意識の向上が図れる施設となっていた。また、より多くの人に利用いただくため、日曜日也会館し、日本語以外でも、多言語にも対応されていました。

そこで、まず、施設の説明を、映像や動画を織り交ぜながら約 30 分ほど説明をうけた後、実際寝ている傷病者を見立てた人形を車いすに乗せ、移動して障害物を移動する訓練を体験することができました。いかに凸凹な道を車いすで通すのかや、坂を下る方法などについてわかりやすく教えていただきました。



また、最新のバーチャルリアリティ（VR）によるバーチャル空間での火災現場からの避難体験にも参加して、VR ゴーグルでの新しい避難体験は、子どもたちにも大いに受け入れられるようになってきているとの説明をお聞きしたところです。

また、この体験館のスタッフは、全員女性の方々と、女性ならではの優しい教え方だったので、小さなお子さんなどにも対応ができるように感じました。

概要

日時：2月14日（金）午後2時～3時

場所：東京消防庁消防防災センター（消防博物館）（東京都新宿区四谷3丁目10-10）

主催：同上

要旨：消防の歴史に沿った防災教育について

本文

【過去から学ぶ防災教育 消防防災センター（消防博物館）】

2月14日 消防防災センター（消防博物館） 視察

江戸時代から現代までの消防の歴史を学ぶことにより、これからの防災減災に繋がっていくために、当館に立ち寄り視察した。

当館には、江戸時代から現在に至るまでの消防関係の資材、書籍などを含む12,000点以上の資料が所蔵され、江戸の消防に関する錦絵、瓦版、古文書、消火道具や明治時代から現在に至るまでの消防ポンプ、防火衣、消防活動資器材などの実物が展示されており、現在の消防器材等に至った過程がうかがえる。



また、阪神・淡路大震災から３０年のパネル展示もあり、東北地方太平洋沖地震をはじめ、新潟県中越地震や北海道胆振東部地震など震災状況、救助活動の状況がうかがえ、今後３０年以内に到来する確率が８０％と言われている「南海トラフ巨大地震」の対策について本市の対策の不十分な点について、議会等において提議していきたいと思います。